

シリーズ

笑顔をつくる働き方改革

米沢市立塩井小学校

落合 篤 校長

令和9年4月に広幡小学校、六郷小学校との3校統合を控える本校。
Google-for-Education の標準アプリ及びクラウドを活用した「校務DX」で働き方改革を進める取組みをうかがいました。



☆クラウド活用で「いつでも・どこでも・どんな情報でも」共有☆ ☆「校務DX」＝「授業DX」☆

Q：県教委でお願いしている「取組み状況チェックシート」に、米沢市内の小学校が数校集まって校務DXを進めているという情報を得ましてお邪魔しました。どのようなきっかけで始められたのでしょうか？

A：始まりはコロナ対応やGIGA 端末への対応から。授業で端末やクラウドを活用してもらうためには、教員の普段の校務で活用するのがよいという声が多く聞かれた。コンセプトとしては、クラウドを活用することにより職員内で「いつでも・どこでも・どんな情報でも」共有できること。それが「働き方改革」というよりもその前段階の「働きやすさ」につながると考えている。また、先生方に子どもたちと同じアプリを使ってもらうことで、授業で使ってもらうハードルが下がっていく。そういう意味で「校務DX」は「授業のDX」につながるといった思いを持って始めた。

Q：ポータルサイトが特徴的とうかがっています。ポイントはどこになりますか？

A：重要なのは「予定等集約シート」（裏面資料参照）。ここに必要な情報（予定詳細、出張、休暇、授業時数、下校時刻、天気、欠席数等）を、主に教頭・教務・養護教諭が入力する。ここに入力すると、全て自動でポータルサイトに反映される。実はポータルサイトを作るだけではまだ半分で、ポータルサイトをはじめとした様々なものに情報が反映されるシステムが重要。1つのデータを色々なものに反映させることで、**手数を減らすことを意識している**。学校日誌も電子化されており、**教頭の日常業務の軽減**に相当役立つ。また、職員会議の資料もペーパーレス化されており、提案者が資料をPDF化して保存しリンクを張ってもらっている。行事ごとに各分掌が作成した資料のリンクをクリックすれば、要項がすぐに取り出せるようになっている。（写真参照）

Q：これは便利ですね！（取材者一同驚嘆！）このシステムだけでも相当便利に思えるのですが、その他にもありますか？

A：チャット機能は非常に使いやすく、教職員内の利用が進んでいる。日常の連絡に加え、共有したい情報を添付することも可能。

FCK（ふらっとちょこっと校内研）と命名した研修用チャット

には、自身が受講した研修を校内で実践した様子をアップするなど、共有する取組みも行われている。

その他には、最新のWBGTを養護教諭や教員業務支援員さんに入力してもらい、子どもたちが中間休みに外に出る前に確認できる画面を校内の廊下に設置した。**子どもたち自身が注意する習慣を身につけさせたいという思い**からのシステムである。



縦は会議名、横は分掌で分け。一目でわかる！

A : 保護者からは、**Google form** を用いて**欠席連絡**や**水泳のチェックシート**を入力してもらうため、朝の連絡も減った。入力で使用する二次元コードや問い合わせが多い項目に加え、教職員の勤務時間・電話の受付時間など様々なお願いを記載した「**よくわかる塩井小**」を作成して、各家庭に配付している。



1枚にまとめられた保護者向け連絡。連絡用 form も

Q : 校務 DX を進める際、どうしてもパソコン作業が苦手だといった教職員の方々への対応において、アドバイスがあれば教えてください。

A : やはり、**まずは使ってみて「便利だな」を実感してもらうことが重要**。研修してからでないとダメといった考えは、DXを進めるスピードを遅くすることになる。使いながら慣れていくという姿勢で。

Q : 先生方自身が DX に向けて自走している様子が見えませんが、どう感じていますか？

A : まずは先生方に興味を持ってもらい、輪を広げていくことが大切だと感じている。その点では、校務での活用を通して、**授業でも創意工夫しながら活用してくれている先生方に感謝**したい。

Q : 今後に向けての考えなどありましたら教えてください。

A : 本校よりも優れた取組みをしている学校や自治体、個人はまだあるので、さらに情報収集や私自身のスキルアップを図り、先生方の「働きやすさ」につなげていきたい。また、米沢市内でも校務 DX の輪が広がっている。

県内唯一のリーディング DX スクール認定校でもあり、多くの学校さんに取り組み

の輪をどんどん広げられればと考えている。興味を持たれた方がいればご連絡いただければと思う。



【当日いただいた資料】

米沢市立塩井小学校の校務DX ~Google for Educationの標準アプリ及びクラウドの活用~

1 コンセプト

- ◎ クラウド活用で「いつでも・どこでも・どんな情報でも」共有…教職員の「働きやすさ」につながる
- ◎ 児童と同じ汎用アプリを使用する…校務DXが授業DXにつながる

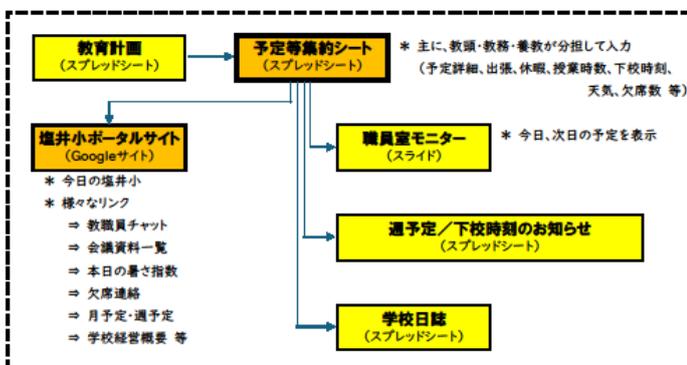
2 校務DXの実践

※必須!

Google共有ドライブ

- * 各自作成した文書を、PDFにして保存
- * ファイルサーバー（作業データ保存フォルダ）と同じフォルダ構成にする
- * 「デスクトップ版Googleドライブ」を、校務用PCにインストール（要：市教委への申請）

…特に重要



- 会議・資料一覧** * 職員会議、終会等、すべての情報をここに集約⇒会議等はペーパーレスで実施
* 担当者が、Googleドライブへのリンクを貼り付ける
- 教職員チャット** * 日常的な連絡ツール
* データやリンクを貼り付けることができる(情報集約や行事反省等に活用)
* 他に「欠席等連絡チャット」「校内研修チャット」
- 欠席等連絡** * Googleフォームを活用
- 水泳チェックシート** * Googleフォームを活用
- 本日の暑さ指数** * 養教やスクール・サポート・スタッフが測定した数値をシートに入力
* 現在の状況/環境者の予想サイト/市内中学校センサーの数値を確認できる
* 校内廊下にもモニターを設置し、児童が確認できるようにする
- 玄関モニター** * IOデータ社の「時間割看板2」を活用(フリーソフト)
* 専用PC(職員室)から、モニターに画像転送

編集後記

今回は「**校務 DX**」を取り上げさせていただきました。DX というと、どうしてもパソコンの操作が苦手であったり、新しいことに対して億劫な気持ちが生じたりしがちです。ですが、塩井小さんの取組みを拝見して感じたことは、イメージしていた世界よりもはるか上を行きつつも、決してやってやれないことはない、むしろ挑戦したくなるような「**胸がワクワクする校務 DX**」でした。本当に貴重な経験とお話をありがとうございました。

★令和6年度下期・年間の時間外在校等時間★

全ての校種で年間月平均時間外在校等時間が **40 時間を下回る** 結果となりました！

そして、昨年度達成した **特別支援学校** に続き、**小学校も** 年間月平均及び下期月

平均における **80 時間超人数で 0 人** を達成しました！

項目	小学校	中学校	特別支援学校	高等学校
年間月平均 時間外在校等時間	31 時間 58 分 (-2 時間 23 分)	39 時間 20 分 (-3 時間 00 分)	19 時間 25 分 (-2 時間 20 分)	37 時間 32 分 (-1 時間 03 分)
下期月平均 時間外在校等時間	30 時間 09 分 (-2 時間 24 分)	36 時間 54 分 (-3 時間 07 分)	17 時間 53 分 (-2 時間 44 分)	34 時間 06 分 (-1 時間 58 分)
年間月平均 80 時間超人数	0 人 (0.0%) (-3 人)	23 人 (1.1%) (-11 人)	0 人 (0.0%) (±0 人)	71 人 (3.9%) (-8 人)
下期月平均 80 時間超人数 《第Ⅱ期プラン目標》	0 人 (0.0%) (-3 人)	14 人 (0.7%) (-2 人)	0 人 (0.0%) (±0 人)	48 人 (2.7%) (-23 人)
年間月平均 45 時間超人数 《第Ⅱ期プラン目標》	582 人 (15.9%) (-182 人)	734 人 (34.4%) (-136 人)	23 人 (3.0%) (±0 人)	504 人 (28.0%) (-25 人)

() は対前年度比の値

- ◎ **学校、先生方の前向きな取組み**により、改善がより進んだ令和6年度となりました。
- ◎ 全ての校種で改善が進み、過去5年間で最も少ない時間外在校等時間となりました。
- ◎ 特に**中学校の改善が大きく進み**、前年比で3時間の縮減が見られました。
- ◎ 第Ⅱ期（令和5～7年度）プランは「半期月平均80時間超人数」と「年間月平均45時間超人数」0人を目指すことが目標となっています（表の下2つの行となります）。

管理職の皆様、アンケートへの御協力、ありがとうございました。

★取組み状況チェックシート★

「**教育課程の見直し**」については、上期で高い取組み率であった小学校や中学校に加え、下期では特別支援学校や高等学校でも高い取組み率となりました。具体的には、**余剰時数の削減や行事の精選、校務分掌・会議の精選**などの取組みを数多くの学校に進めていただいています。

中学校と高等学校においては、時間外業務に占める「部活動」の割合が減少しています。特に中学校は、取組み成果として「**部活動改革の推進**」を挙げた割合が高く、**地域移行展開による休日活動の縮減、勤務時間内に部活動が終了する教育課程の工夫**など、様々な改善がなされています。

「**ICTの有効活用**」や「**外部人材の活用**」については、全ての校種において、活用率が着実に伸びてきています。どちらもシステム整備や人的配置の拡充といった支援が欠かせないものであり、**各教育委員会からの負担解消に向けた継続的なご支援の成果**が表れています。